

令和4年度 主題研究

北九州市立筒井小学校

1. 研究主題

造形的な見方・考え方を働かせる図画工作科
～「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して～

<一年次>令和2年度 子どもの視点に立った題材研究の工夫

着眼1:子どもの学習意欲を喚起する題材の設定

着眼2:子どもの視点に立った造形的な見方・考え方を働かせる学習活動の工夫

<二年次>令和3年度 子どもの姿を深く読み取った指導の手立ての工夫

着眼1:造形的な見方・考え方を働かせる題材設定や鑑賞教材の工夫、対話的な活動の設定

着眼2:子どもの姿を深く読み取った造形活動と鑑賞活動を関連させた指導の工夫

<三年次>令和4年度 子どもの思いを深めるための鑑賞活動を位置付けた学習展開の工夫

着眼1:子どもの学習意欲を高めたり造形的な見方・考え方を働かせる鑑賞教材の工夫(仮)

着眼2:表現と鑑賞を相互に関連させた資質能力を高める学習活動の工夫(仮)

2. 主題設定の理由

(1) これまでの経緯

平成25年度～

図画工作科の研究開始

平成26～28年度

国立教育政策研究所教育課程センターの研究指定校

平成29～令和元年度

本市AL推進事業指定校「つくりだすことに熱中する図画工作科学習」

(2) 学習指導要領の授業改善の視点から

本校の図画工作科においては、「主体的・対話的で深い学び」について次のように捉えている。

主体的な学び	子どもが活動全体を通して意欲的な活動を積み重ねるとともに、つくりだす喜びを味わい、最後までやり遂げることのできる学習。
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"><p>(具体例)</p><ul style="list-style-type: none">・これまでの経験を生かすことができる・失敗も含めて試行錯誤的に問題解決することができる・自分の成長、よさや可能性に気付き、次への意欲につなげられる</div>	
対話的な学び	造形的な見方・考え方を働かせながら自他の作品や活動を見て、考えたこと、感じたこと、思ったことなど伝え合ったり話し合ったりする言語活動が充実した学習。 本年度は、 <u>コロナウイルス感染症対策として密を避ける交流の仕方に配慮していく</u>

<p>(具体例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「この色でよいか」「自分の表したいことは表せているか」など自己との対話 ・ 分からないことを相談するなど自発性や必然性がある他者との対話 (付箋等を使っての対話) ・ 視覚的な言語、触覚的な言語を大切に、行為や作りつつある作品などの形や色との対話 ・ 自他の表現への思いや感じ方を理解し合う交流の仕方の工夫 (作品を机に置き、<u>少人数で他者の作品を見に行く</u>、<u>拡大して作る</u>、<u>付箋などを使う</u>など) ・ 技能を高めたり、新しい価値を見いだしたりするための、形や色などの造形的な視点に着目した話し合い (密を避ける配慮) 	
<p>深い学び</p>	<p>「つくり、つくりかえ、つくる」という学習過程の中で、子どもが造形的な見方・考え方を働かせながら造形的な創造活動に取り組み、学びの実感がもてる学習。</p>
<p>(具体例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「習得・活用・探究」という学びの過程の中で造形的な見方・考え方を働かせる ・教師が教える場面と子どもが学び合う場面を関連させて学びの実感をもつことができる 	

☆ 図画工作科の学習は、「感性を働かせながら創造的に問題解決する力」の育成を目指すものとされている。

3. 本校の子どもの実態から

- 5、6年生は単学級のまま進級しており子ども同士が互いのことをよく知っているが、4年生以下は、互いによく知らないこともあることが考えられる。特に3年生は初めてのクラス替え、1年生は入学したばかりなど、実態にばらつきがある。
- 図画工作科の学習を「好き」と答えている児童が多い。さらに、造形タイムを楽しみにしている児童も多く、創造力を働かせ自信をもって作品づくりに取り組んでいる。
- 新しい関係作りに図画工作科の交流(特に鑑賞活動)が有効な手立てになる。
- 丁寧にコミュニケーションをとらなくても通じ合える状況があるため、自分の気持ちや考えを相手にわかりやすい言葉で伝えることについては課題がある。(これまでの筒井小の実態)
- 数名ではあるが、活動前から「自分はうまくつくることができない。」「想像通りのものがつくれなかった。」「描けなかった」など、発想・構想面や技能面でのつまずきや不安を感じ、活動が停滞したり、意欲を減退させたりしている子どもの姿も見られる。
- 鑑賞活動を行うことによって、自分の作品に自信がなくなった児童もいる。全体の鑑賞と部分の鑑賞をうまく使い分ける必要がある。(学級全体⇔個人、作品全体⇔作品の一部分のみ など)

	図画工作科アンケート結果(7月)										
	1の1	1の2	2の1	2の2	3の1	3の2	4の1	5の1	学習後	6の1	6の2
図画工作科は好きですか	3.7	3.6	3.6	4.0	4.0	3.7	3.5	3.6	3.5	3.3	3.0
絵をかくことが好きですか	3.7	3.6	3.6	4.0	4.0	3.7	3.4	3.5	3.5	3.3	3.1
版遊びが好きですか			3.4	3.0	3.1	2.9	3.1	3.1	3.0	3.2	2.8
粘土あそびが好きですか	3.5	3.2	3.6	3.5	3.4	3.6	3.0	3.4	3.2	3.2	3.3
ものをつくるのが好きですか	3.7	3.6	3.5	3.6	3.5	3.5	3.3	3.3	3.4	3.2	3.0
造形遊びが好きですか			3.4	3.3	3.4	3.3	2.9	3.3	3.4	2.8	2.8
絵を見るのが好きですか			3.5	3.9	3.9	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.3
彫刻品などを見るのが好きですか	2.3	2.6	2.6	2.8	2.7	2.0	2.9	2.7	2.8	3.3	1.7
友達の作品を見るのが好きですか	3.1	3.3	3.4	3.4	3.0	3.4	3.2	3.1	3.2	3.5	2.8

4. 研究の流れ(令和4年度)

月 日 (曜日)	研究内容	月 日 (曜)	研究内容
5月17日(月)	・主題研究計画書提出	11月24日(水)	検証授業 (3年1組)
6月9日(水)	・主題推進計画の提案	12月	・アンケートの実施・集計 アンケートによる検証授業前後の児童の変容の検証 ・成果と課題作成(一人一実践) ・研究のまとめ 作成(3年2組、5年1組)
5月18日(火) ～ 7月31日(月)	アンケートの実施		
9月22日(水) (予定)⇒11月5日(水)	提案授業 (5年1組)	12月～ 2月～3月	・研究紀要作成 来年度に向けての見直し 等
9月～10月 11月9日(火)	主題推進委員による指導案検討、 授業づくり 5年1組研究協議会の内容まとめ		